

平成25年 3月

坂部友彦 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 廣 岡 保 明
同 汐 田 剛 史

主論文

Identification of the genes chemosensitizing hepatocellular carcinoma cells to interferon- α /5-fluorouracil and their clinical significance

(肝癌細胞に対する interferon- α /5-fluorouracil の感受性増強遺伝子の同定とそれらの遺伝子の臨床的意義)

(著者：坂部友彦、土谷博之、神吉けい太、安積遵哉、権田一絵、水田悠介、山田大作、和田浩志、庄盛浩平、永野浩昭、汐田剛史)

平成25年 PLoS ONE 8巻 e56197

審査結果の要旨

本研究は、進行肝細胞癌に対して有効性が報告されているIFN- α /5-FU治療の感受性増強遺伝子が、protein kinase, AMP-activated, gamma 2 non-catalytic subunit (PRKAG2)、transforming growth factor-beta receptor II (TGFBR2)、exostosin 1 (EXT1)の3遺伝子であることを同定し、これらの遺伝子によるIFN- α /5-FUの作用の増強効果を詳細に確認すると共に作用機序を明らかにした。更に臨床的にも検討し、IFN- α /5-FU治療を受けた肝細胞癌患者の癌部におけるPRKAG2 mRNA発現量が、生存期間と有意な正の相関を示し、IFN- α /5-FU治療の効果予測因子となることを見出した。本研究は、進行肝癌患者でのIFN- α /5-FU治療の有用性を高めるものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。